

Zino

ライフを満ちたセンスで先陣

NOVEMBRE 2007



LUCA RODA

ルカ・ローダ
ロダ社長

まったく気負わず 街着感覚でゴルフ服を選ぶ

ゴルフ歴12年のルカさんには、「ゴルフ用の服」というカテゴリーは存在しません。いつも着ているカジュアルの延長線上にある服を着る、という感覚なのです。ラルフローレンのポロシャツは襟を立て、プリングルのニットを肩かけて、より「こなれ感」を演出しています。

ルカ・ロダ氏も実践! モダン洒落金男は、180cmの 「クセモノカシミヤ」を “もっこり”巻き

ルカ・ロダ 34 (デザイナー)

毎年イタリアはパルマで生まれ、90年に自身の名を冠したブランドを立ち上げた作家。特にネクタイは、カラーと柄のセンスの良さで日本でも大人気です。今回の取材では、なんとカシミヤ(世界の最良)スーツが登場。まさにお洒落を楽しむ天啓です。

秋

冬の着こなしは、コートやアルペンなどの重たいアイテムになることから、どうしてもズリタで重苦しいムックスになりがち。そのへビーな印象を中和させる意味でも大柄・お手柄なマフラーを巻くのは合理的なテクニクです。とはいえ派手ならなんでも良いかというところにあらず。やっぱり一段上のコンパニオンを極めたい我々は、大人の扱いにマッチする、派手ながらシッカリした「クセモノ」マフラーを選び出す必要があるのです。そこで編集部にて厳選ピックアップしたのがこちらに載ったもの。ファンシーな柄行きながら、二色程度に色使いを抑えているため、コーディネートしやすいうちもポイント。ひと気色ければ、コートなどの重衣料の垂れ下り感を適度に緩和した、上品にしてお茶目なスタイルが完成するのです。



そんな「クセモノ」マフラー1枚の達人こそ、本誌でもご紹介しているネクターイブの重鎮である、ルカロダさん。ビジネスアイディアを膨らませて、お洒落を愛するしどろ小物に「家まで持たせろ」というのは、イタリアではつとに有名な話です。そんなルカさんが次に狙いを定めたのが、カシミヤマフラー。巷

スーツにおけるマフラーは、通常シボの薄手が基本。しかし、それではお洒落すぎない、など思っていた。ルカ先生がやってくれました。お洒落ではイタリアの空を思わせるかわやかな色合いに鮮やかなラインのマフラー。上写真は超絶ボリュームも柄柄をコーディネート。ロダさん曰く「肉厚マフラーは、インパクトだけでなく、着崩れによる「隙」を隠すことも可能です」。さまざまな用途でシボを巻かかしている。選定デザイナーの18cmマフラーは、すべて100%カシミヤ製。各5万1400円/ロダ (アルマニマフラー)



